

「全鍍連」 2021年4月号 巻頭言

全鍍連経営委員長 吉田 幸司 (有吉田商店 代表取締役社長)

「ニューノーマル」

春暖の候、組合員の皆様におかれましてはますますご清福にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素は当会の運営に対しまして多大なるご理解とご協力を賜りまことに有難うございます。

さて、コロナ騒ぎが起きてからはや1年余りが経過いたしました。度重なる緊急事態宣言の発令、不要不急の外出やイベントの自粛等によって各組合での会合、全鍍連行事、各委員会の会議等がこの1年間ほとんど行なう事が出来ませんでした。

経営委員会としても『何かしらの形で開催したい』と思っておりましたが、私も含め組合員の皆様には本業たる会社があり、そこにはたくさんの従業員がおります。もし、万が一何らかの集まりで感染してしまったら…と考えるとなかなかそうもいきませんでした。

感染拡大防止のため人と人との対面が制限され、この約1年間、全鍍連で他県の組合の方と会うことはもちろんなく、県内でも一部の組合員にしか会うことがなく、さらに会社では客先でも納品に来る人しか会うことが出来ないといった状態が続いており、孤立感や不安感を抱いている方もいらっしゃるのでは？と思います。

自分自身も、今まで当たり前のように行っていた客先や外注先でのたわいもない会話がどれだけ自分のモチベーションの肥しになっていたのかを、改めて痛感しております。

コロナが収束しても Web 会議をはじめとした新しい取組みは続いていく。いわゆる『ニューノーマル時代』への移り変わりをメディアで目にしますが、やはり Web だけですと、『会議としての目的を果たす機能』として考えれば否定はしませんが、人と人との直接的なコミュニケーションと違って、なにか物足りなさを感じてしまいます。

今の現状に合わせて変化に対応していくことが必要なことは十分理解しておりますが、これが当たり前にはなって欲しくない。やはり時間をかけて会いに行く。直接顔を合わせて会話をする。人と人とのより良い関係を築くためにもこれらは無くなって欲しくないと思っております。

リモートワークや日常生活での他人との距離の確保など、今までとは様相が変わってくることはと思いますが、少しでも早くこのコロナが収束しこの窮屈な環境から脱却出来ることを願っております。

まだまだ、大変厳しい状況下ではありますが、一日でも早く元気な皆様と会える日が参りますよう心より祈念しています。